

大学生によるカリキュラムデザイン

—教養教育科目の選択と有機的関連づけの支援—

杉原 真晃

山形大学高等教育研究企画センター

研究目的・内容

教養教育の目的に関連させた教育方法についての議論は少ないなりにも見受けられるが、課題は山積みといえる。たとえば、竹内は、教養教育の目的を「文化における自省と超越」とした上で、その方法として、「教養の培われる場としての対面的人格関係」（竹内，2003，246頁）を重視する。しかし、様々な学問領域（あるいは学際領域）の授業科目を広く提供するという多くの大学で実施されている現実の教養教育に対して、「文化における自省と超越」をもたらすような授業を行える教員（あるいは授業科目）をどれほど設置できるかという課題が残されている。また、中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（2002年）では、教養教育の目的として、「理系・文系，人文科学，社会科学，自然科学といった従来の縦割りの学問分野による知識伝達型の教育や，専門教育への単なる入門教育ではなく，専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や，人間としての在り方や生き方に関する深い洞察，現実を正しく理解する力の涵養など，新しい時代に求められる教養教育の制度設計に全力で取り組む必要がある。」とした上で、その方法として「入門段階の学生にも専門知識を分かりやすく興味深い形で提供したり，自らの学問を追究する姿勢や生き方を語るなど，学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激していくことも求められる。」と提示している。しかし，カリキュラムレベルでの各領域間の関連性をいかに構築していくのか（これは，戦後一般教育が抱えた課題でもあった），あるいは専門分野の枠を超え関連性を持たせた授業（たとえば，オムニバス形式）をいかにデザインし実践していくか等の課題が残されている（オムニバス形式の授業に関しては，統一したテーマにより各々の講義を統合する，コーディネーターが各講義を関連づける，教員同士あるいは教員と学生のディスカッションを導入する等の方法が，各講義の関連性を持たせる要因となることが明らかにされている（たとえば，杉原，2003））。

また，上述した事情とは異なる観点から新たな教養教育の方法論を検討していく必要性が考えられる。それは，学生の視点である。荻谷は，「大学の教育改革は，学生たちの『学習改革』と結びついたときにはじめて意味をもつことになる。したがって，大学教育の質は，何よりも学び手である学生側の学習の質によって測られるべきであり，どんな改革も学生の学習に影響を及ぼさないかぎり，それは大学側の自己満足に終わってしまう。（荻谷，1996，29頁）」と指摘する。つまり，学生が教養教育を通して何を学んだのか，大学が求める教養教育の目標を実際に学生が達成したのか等，学生の観点から教育方法を検討していく必要があるのである。

本発表は，以上のような問題意識により，教養教育の方法論を教養教育の目的という教員の観点と，そこでの学びという学生の観点の双方向からとらえ直す研究の一部である。具体的には，教養教育を自らの意味あるものへと位置づける，あるいは授業相互を関連づ

けることを目的とした教養教育科目の授業において、学生が教養教育をどのように意味づけ、自らのカリキュラムをデザインし、学びを深めていったのかについて分析し、より有効な教養教育の方法を提示するものである。本発表では「カリキュラム」を、「学習者に与えられる学習経験の総体」(文部省, 1975) という意味として使用し、タイトルである「大学生によるカリキュラムデザイン」の「支援」を「自分に対する教育を自分で編成していく力と責任を与える」(松下, 2003, 79-80 頁) と位置づける。

研究の方法, 事例研究の対象授業

教養教育科目の授業の事例研究を行う。対象授業は、山形大学教養教育科目「春からのキョウヨウ教育必勝法」(毎週金曜, 履修者数 139 名) である。授業の際に実施したアンケート, ワークシート, 最終課題レポート等のデータを用いて分析する。本授業は、多様な教養教育科目を学生が自らにとって意味あるものとして位置づける, あるいは相互に関連づけるという目的を, 講義, ディスカッション, ワークシートによる考察, 課題レポート等の方法を用いて実現しようとするものである。これは, 一人の教員が知的刺激を与えながら学生自らの大学生文化の自省と超越を促し, 多様な領域の教養科目を関連づけさせる教育方法への挑戦である。

結果と考察

結果と考察について, 発表当日は以下の要素について述べる予定である。

- 1) 学生の多様な受講動機, 教養教育に対するイメージ, 教養教育への不安・不満
 - ・多様性と画一性
 - ・教育側と学習側のミスマッチ
- 2) 教養教育の意味づけ
 - ・学生による多様な意味づけの認識
 - ・教養教育科目の多様性の認識
 - ・多様な教養教育科目を通じた学習経験の有機的関連づけ, 意味づけ
- 3) 今後のカリキュラムデザイン
 - ・多様な教養教育科目の選択に際する有機的関連づけ, 意味づけ

引用・参考文献

- 荻谷剛彦「授業の質・学習の質」『IDE ; 現代の高等教育』380, 28-33 頁, 1996 年。
- 松下佳代「大学カリキュラム論」京都大学高等教育研究開発推進センター編『大学教育学』培風館, 63-85 頁, 2003 年。
- 文部省大臣官房調査統計課編『カリキュラム開発の課題—カリキュラム開発に関する国際セミナー報告書』大蔵省印刷局, 1975 年。
- 杉原真晃「大学授業における教官の言動と制度の表象により生じる齟齬とそこからの脱却の可能性—教養科目における学生のアイデンティティ形成に着目して—」日本教育工学雑誌 27(Suppl.), 233-236 頁, 2003 年。
- 竹内洋『教養主義の没落』中公新書, 2003 年。